

阿弥陀さまをおがむ子どもを育てる

お釈迦さまや親鸞さまに親しみを持つ。

新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、小中学校及び高校の休校や式典の中止、外出自粛、オリンピック・パラリンピックの延期、パンデミック、緊急事態宣言、世界経済の混乱、出入国の制限など、ありとあらゆる面に深刻な影響を与えています。目に見えない新型コロナウイルスが、全世界に向けて戦争を仕掛けているのです。

世界、日本、行政、企業、個人が、「今有ることをどう考え、どう対処するか」を問われているのではないのでしょうか。

「当たり前前」にあったこと、できたこと」が「当たり前でなく、なかなかできないこと」に気付き、「ものがないこと、できないことに不平や不満を言う」のでは無く、「感謝すること」「生かされている私たち」を学ぶ機会なのではないでしょうか。

「当たり前前」の反対の言葉は、「有り難い…ありがたい」です。「当たり前前」にあることにありがとう」という心で過ごしましょう！

この原稿が載る6月号が発行される頃には、新型コロナウイルス感染症の終息にめどが立っていることを願っています。

さて、わが園では、保護者と保育士がパートナーとして子どもの育ちを理解し、子どもにとってより豊かな育生環境を築くことができればと考え、「ブレ保育士体験」と称して保護者が保育士と同様の活動を行っています。その時の仏参「この日」に保護者からいただいた感想を取りあげます。

園の遊戯室にいらっしやる阿弥陀さまの前の机（上卓）には、一対のお仏飯をお供えしております。そのお仏飯をお下げて、1つは上卓の中央付近に移動させ、もう1つは前卓という別の机に移し替えて、次のようにお話をしました。

「上卓のお仏飯はお釈迦さまです。阿弥陀さまの願いである『4つのおやくそく』を、インドの言葉で世界中に広めたお方ですね。次に、前卓のお仏飯は親鸞さまです。阿弥陀さまの願いである『4つのおやくそく』を、日本語で日本中に広めたお方ですね」

そして、続けて「みんなは息を止めたり、また吸いはじめたりできますが、心臓を止めたリ動かしたりはできないですよ。阿弥陀さまに『生かされている』のですよ」とお話をしました。

この仏参「この日」が終わってからの保護者からの言葉です。

「園長先生は、浄土真宗本願寺派の保育連盟が推進する『まことの保育』を行っていると言われますが、正直、『まことの保育』ってよくわかりませんでした。ですが、今日のお話を聞いて、阿弥陀さまとお釈迦さま、そして親鸞さまの存在と『生かされているのち』ということが初めてわかりました。子どもたちにわかりやすく丁寧にお話をされていることに安心しました。今日の『ブレ保育士体験』のおかげで、今後も安心して子どもを預けることができます。これからもよろしく願います」との言葉をいただき、大変嬉しく思いました。

「まことの保育」とは、子どもたちだけに對してのものではなく、保護者の方へのものでもあることに、あらためて気付かされたことでした。

まことの保育の願い

教育原理委員会 柳溪暁秀 合掌